

平成二十七年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙は、オモテ面を書き終えたらウラ面に続けて書くこと。
- 四、解答用紙の他に、下書用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 五、解答時間は、一二〇分である。
- 六、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。
- 七、解答する際の字体は楷書とし、ていねいに書くこと。

## 問題

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。(なお筆者は、問題文中に出てくる「A学力」は「知識・理解・技能」に、「B学力」は「思考・判断・表現」に、「C学力」は「関心・意欲」に、それぞれ相当するとしています。このことに留意してください。)

非公開

(志水宏吉、『学力を育てる』、岩波新書、二〇〇五年、四四～四七ページ、抜粋・一部改変)

問一 子どもに対する望ましい支援と指導はどうあるべきか、筆者の考えをまとめなさい。(四〇〇字程度)

問二 「学力の樹」を「ことばの力の樹」と言い換えて、図を国語教育について説明したものに書き換えるならば、「幹」は、「話す・聞く能力、書く能力、読む能力」に相当すると考えられます。その場合の「葉」や「根」、あるいは「光」「水」「土壌」が何に相当するかを考えて、あなたが思い描く国語教育について、述べなさい。(六〇〇字程度)

平成二十七年入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小 論 文

教育学部 学校教育教員養成課程

小・中学校教科教育コース 国語教育専修

出題の意図

本専修では、平成二十三年度は民話（口承文学）の世界について説いた素材文を、二十四年度は世界各国の国語教科書について紹介した素材文を、二十五年度は琉球方言のもつ美しさと生命の輝きについて述べた素材文を、二十六年度は短歌における「オノマトペ」の効果について述べた素材文を、出題文としてきた。国語科の世界の豊かさを生かして、多様な素材文を提供し、受験生が付け焼き刃でない「国語科へのこだわり」「国語への思い」を持つていかどうかを、小論文試験において測りたいと考えている。今年度は、問題文そのものは「学力」すなわち一般的な教育論について述べたものだが、出題において「国語教育」に適用させることで、国語教育専修らしさを出している。また、近年謳われている「非連続型テキスト（図表、グラフ等）を読解する力」にもかかわる問題文である。

問一では、文章の趣旨を的確に読み取れているかを測り、問二では、右に述べたとおり国語教育への展望・構想力を測りたい。すなわちこの入学試験問題は、受験生が、教育学部学校教育教員養成課程のアドミッションポリシーにおける「1 教員として子ども及び社会と関わっていききたい人」「2 教育の理念と実践を広く深く学ぶ意欲のある人」に適う人材であるかどうかを確認しうる内容となっている。